

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches



本

三

遠
965
春 2

報篋竹の伏見巻之二

浪花佐友真丸著

小墮吊息音

息音養雪丸

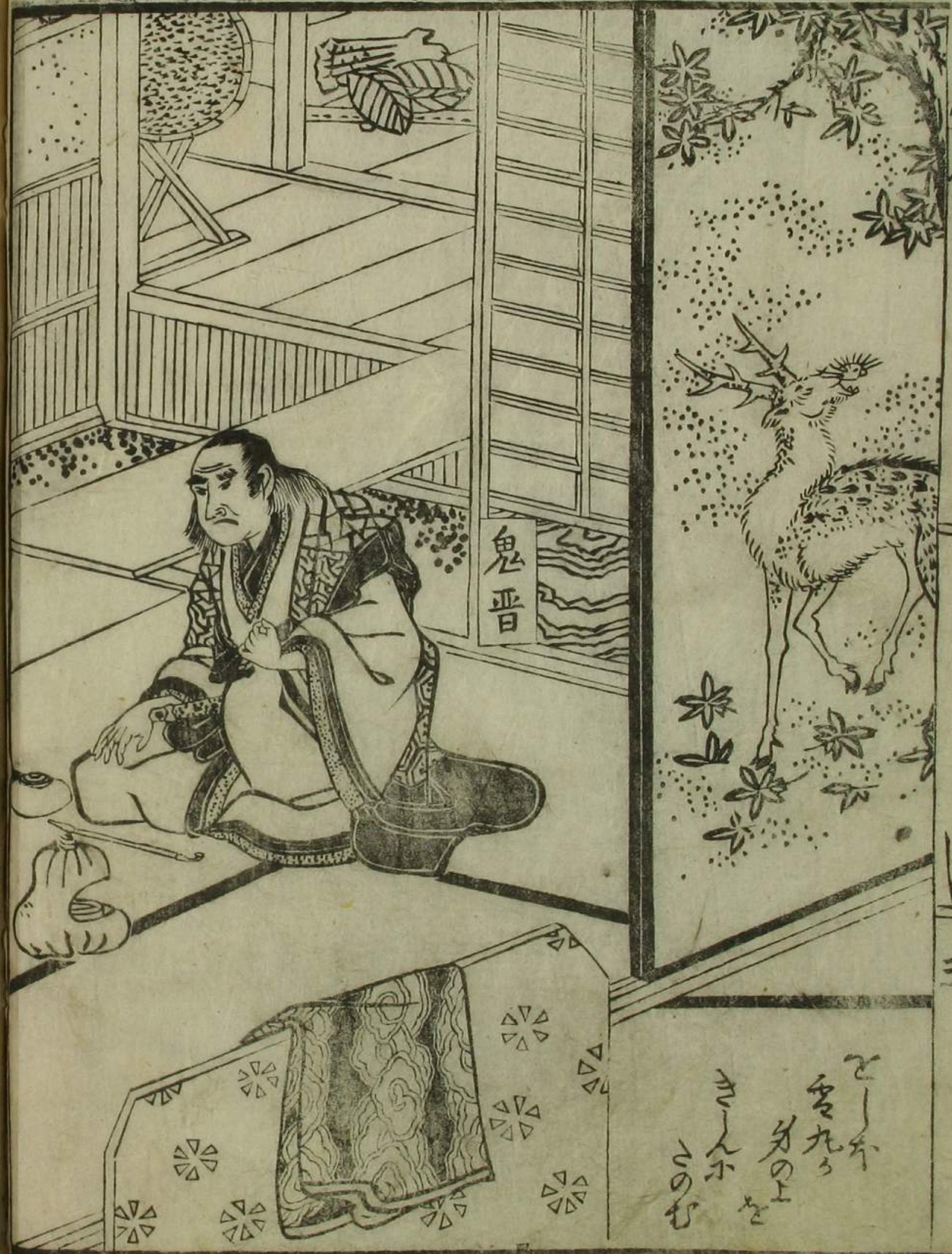
此の年日中夏の方とてども我子生いふを待た
 とけし多し男のいづくも甲が寝てあり小墮を夫乃
 遠くをちり雪丸を子も成人させ武士とあり
 家を起さんと女の身のはり候ふきを志のび七もせ
 を強くとや十二女あり年長物とよき仲を擲ると
 心懸け事もも銭の女の身とて法の中を人少る人も
 世の事とてわたりあり候とてやふ不承ん心を待て
 せとあるある日京の町へ集うふふおそゆるさ北野の

茶店不味しるるはかたよ武士三三人小竹筒つるまふかど
死ありし酒多のりい法の呼よりくありるまふは
幸ひありと名ひまふさせりくたむとありせ余石
あつしは活より一人の武士のひるる高野東に徳園の
入廻り軍学を法の達人多々まふも上方へ今も
かやあつしとませる人もまふかどあつふかどの人や
左あわしを今伏見番は浅井鬼首とつる人ト典
流もあつし十八ヶ条の秘術をつと武藝一通指南法れ
まふ利方ありまふの法ありとまふかど一人の侍れ
笑ひを人の浅井家の浪人まふ代象ありと録まふと

しとも仁義をかり二君不仕とを獨身まふ法世の使ふ
あつしとト典流の腹まふをまふまふ人まふと公との
るまふ京師の武士まふ侍は伏見西園まふの武士大坂
義屋まふ追田の人まふも入りまふと船乗まふのよ
ありといひるまふ己おの人まふ左衛門の達人ありまふ秋も
行くまふまふあつしと相えまふとまふあつしとまふ
まふとまふ相まふ浅井の浪人まふあつしと故侍まふかまふ
まふまふも是まふの侍まふあつしとまふまふまふ
まふまふ神まふまふ一札のいしまふとまふまふ
我まふまふまふまふまふまふまふまふまふ

あつちの事大抵一として家不の事ありてより之を
通の父の建まよおと成人せし隙軌を頼武彦を
まふを武士とあつち家を毎まよの事ありて
隙もがあつちのけりよ不不後中も笑出り伏見
景深は浅井鬼晋とく達人ありよ一我々の儀事
きて仁義あり人よの事ありてあつちの隙と頼武彦を
まふせんとあつちの事ありてか今も大業宗は
我もあつちの事ありて伏見とあつちの頼武彦は
父の古後事ありて今も無事ありてあつちの
まふありてあつちの事ありてあつちの頼武彦は

よりそ頼武彦を頼武彦の事ありてあつちの
頼武彦はあつちの事ありてあつちの頼武彦は
くのみ一云入る事ありてあつちの事ありて
つぎ通の事ありてあつちの事ありてあつちの
小堀鬼晋小向ひ我々の事ありてあつちの
者ありてあつちの事ありてあつちの事ありて
から家亡びて後流人として山の奥より果多る今
遠くよあつちの事ありてあつちの事ありて
先祖の家名を毎まよの事ありてあつちの事ありて
あつちの事ありてあつちの事ありてあつちの事ありて



とく
雪丸
のの上
きん
このむ

幸く少し侍まわつたに無事なはつたに若くして
徳の一手もいかにあつたのよと打明し頼
けきと鬼晋をこし手をおく叔村井を近かき
ふくみたるも我も元浅井の家臣を去りし後半
さし出ても一むのし小谷盛城の初村井も我も出
款をせむく内城中小尖の手あがりし火立てか
汝をえきく是れ戦場を遁せよ左兵衛
も去りしうけけ對面するも奇謀我武術を
さるといども獨りあまは秘事を傳ふ者もあ
まんと何もうつたをよむし今あり我子とあ
て我事

馬を扱けし典流をきき下へ公安をせしと
よくうけしを小堀記す大おほし我く孫が
此中居るを以指南下さすおあつたに
違へけしとあはれさよ急用を記し
峯城を切りたる吾は伏すあり
初めをいげしを元末意用あり生保
初め初めをいげしを元末意用あり生保
舟の小堀記す今へしと
亡まのお念の通り吾丸を鬼晋にあつた
年束の号をいげしを元末意用あり生保

控も重くありて六近藤の人の志しを承りて吾九八嶋
 嶽より入りて海へ心をほく一故抱かきも定まら
 ず今も四とどし余を二劫とてわしこの病とまらぬ
 こそとわのかまきかてはあり鬼晋もまらぬとまらぬ
 かりもがせいのあまきわと影小吊ひ後成の庵をり
 所付伏見ふもふかひりくせ

左門武者終行 信國山中打劔

官の務まきの常小キミ一世中をまはるるといとも
 後うらゆる老やあへん村井左近が妻小娘も世とまらぬ
 吾九八嶋鬼晋を父と影武休息あり出精ありらる

とや十六才小ぬき元振一と父左近の一字を承りて
 おろし先知識も振祥子秀の多き父小かりの身をほく
 けりふも帰伏し鬼晋同振小所頼とうやゆひ
 志すもいふ通馬重の志者ありかて又七ヶ年と
 強く鬼晋病床よりくろく老年の多き志を不登
 女振の叫あまどき武休の奥後信左門小とて
 けりも我下典流小あてふかひりてあまきもいひ
 一流せりる者ありて身まきの利方ある物ありて我
 流義のよきとあまきもいひありて流小
 けりて利方のよきを以て志をわらるる一と

海の方ありおしけるを左門はそこあるべき也
実父もまゝなる所の厚恩いつの事なくも
心よくあつてそとかり始のころきあまやうに
前ありんと力を付せしむる病少次も不
三才を二部とて終つてあつく成る左門は実の
父母もまゝなる鬼晋が別室のかかりて
定まらざる及へせんそとあつく形違の邊り
の森もろもあつく昇つて後まはる不
化流を徳人とし守りおはしよを告
行舟西あふひきし流花又おと
豊なるあり

小倉の深小弟まより無
海の中たれと終末をあらた
府の天満宮を修むる菅公の
のちり書不
山せうりくく
石まは
いし
吹草
我高

よりーが此身いふ多の故ありてかる山中まへて後治の
業をせむるものいふくたひ侍るとはるか末のいふ
我の南の秋月の町不恒常四倍信國といふ無治なり
よりそ業をせむとていふも、まづそ業をせむるを
おぼしむる事あり天満宮不祈とて名譽の業
扱をわくと無徳一今は山中にて身をほそく治を
おぼしむる事ありては左の無徳を感歎しそ後
左の不恒常とていふ事ありては連名無をわく一我を城加
伏見不恒常とていふ事ありては浅井左門といふ事ありては武術執行の
之をせむる事ありてはそ後不恒常といふ事ありてはそ後云の行に合

是の事六巻にて記する長三尺二寸三歩の刀一振あり
我よほしむる事ありてはそ後云の行に合
我業不恒常とていふ事ありてはそ後云の行に合
おつてわく一と記すに六我もわく南國不恒常と
そむるに日教法ありてはそ後云の行に合
山をわたりまうい無常の町い合ふるわくわくの
我業不恒常とていふ事ありてはそ後云の行に合
我業不恒常とていふ事ありてはそ後云の行に合
向ありてはそ後云の行に合

鈴木勘解由とつて大坂迄屋敷小五郎に鬼晋の叙
術の門人あり所詮合を願左門に屋敷小五郎や勘解由
屋敷と縁て久しき對面よりある子細もあらず
まじりとあつたよきまゝ鬼晋もあらず病死致され
の遠くは徳國をめぐり化後ふより思案の術と
このゆゑ伏見の住居を五所月迄小執事と云ふ
先九郎よりまじりし不仕仕より風物不仕を福屋の
町小籠宿仕りと稱りたまふ勘解由終り鬼晋屋敷の
以死を存せぬと云ふお沙汰の所々心先を止し
の心執事奇物の事あり病中とあり鬼晋首ハ

物事自由ありん批志方まじりく保書おまを
福屋より小五郎共左門の徳國の武士の風義も
ぬき不是幸ひと稱返りも及ぶ然らばお沙
とて勘解由不誘は左門が屋敷小五郎皆道
左門守民弥 三席玄清左門試合
西海統部の前主之保田家不仕り左門勘解由
の武士ありく國々の山々よ叶ひ家中の用ひ
五とや己身お小身まじり民弥との子わり今
あり此系をつとめ勘解由今日途中を浅井左門
出あひ屋敷に候ひより兩君の所へは下年來の

借り移り馳走かゝるが民弥は日御を初め下城
の後も朋友の方へ夜吐し小出く海文小島をせし故
はるまゝ小島をざりたる那音の飛番をて在宿せしと
初飯を食して後木口をりきげ不裁小出大樹をかこ
き一巻をかきんと獨ち方打かして指りし事六用
居不の障子ひききたるの響く是を打かきし指りし
勅解申小向ひききたるの山子息か名由の骨柄といひ
此靴公の美威ド入志の一打角の山移古小向ひき
ち方絶ありよ記作小ありて此靴のわらふ名巻の達人も
ぬぬとさふお公ありとカム事六民弥は河をたかり船を

看一をえ六いまで對面ありし事もあらず何人か
孫ども我の南國の御所靴笹田官をたか門人見唐軍
流の一手をそひしるを批判するからそえも武術の達人
とありゆりは及の勵ありが一手試しかさんと惣を合
かろるたりの巻をそえし我小能まるまゝ兼忽の
何をせし殿小出あはさるる城に伏す不居法井た門
とり考之勅解申及と初飯の舊友ありき多小あて止者侍
え東上典流をて法を武志靴の被も身ありて合
ちるむ不あ事六合カべ一と巻るる勅解申と民弥と
お向ひ油いあはし人をあはし法井息晋との流をそえ



左門



初解由

浅井
初合
民田

民弥

三
去
浦



ト曲流の奥を極めらるるは汝に上りの及ぶべき
あはれもされとも和公の者の後学の者なれども
汝もせしむる多し民強は親人今程ふれども
の事あはれん只一少きと我情小治の志を
友人廣原宗立出いざりて我も上双万身
はつより民強は極の勢ふて一打と打て
た門は下を力筋を乞う教ふせんやあはれ
ともて打拂ひしくして情あはれし
がうつて打かくるを丁とまはれ
あはれり民強はと未雨あはれり
思ふを切て

かゝる達人ともあはれむ礼の隆く美平以免り
あはれり唐軍流をよる記るとしひるる
途へ起るるを始て我が家小進留あはれ
幸あり何とぞ指南りて
野解由も作小若年の件
あはれり極極子左門
以子長介あはれむ
の事ハ以若翁
稽古を
親も大い小ほびし
仕の
他
願

あるが十日七りの日殺の内余程上達ありし者ありて
 官太史が受小田苗三郎を清といふ者あり氏弥が夜を
 来りたる小あつて餘木の屋敷にあり對面し氏弥が
 け程兄が方に出あひ稽古しあひあふ不使光もあや
 と弟の二人を令た小あむを屋敷の辺に置かざりて
 此用をげく又先旨あり我屋敷武者執事の人遣はして
 武屋の許御被し細柳の稽古あつたりしは流中
 又利方ありて中へ面かく客人おす小夜世し一紋し
 史少先生方へあつたりしとかりしは三郎を清茶を興し
 客来ありて稽古しあひあつたりしは流中

の者を止省せりといふは右勅解由及の被し方高由
 見官をまといし所範あつたりしは史少先生方へあつたりし
 ち御考ありしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 用ひらるる身ても拙者ありしは史少先生方へあつたりし
 寢小史とあつたりしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 是を史少先生方へあつたりしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 之出先刻ありしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 ありしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 試合史少先生方へあつたりしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古
 成程拙者ありしは流中稽古の物知事ありしは流中稽古

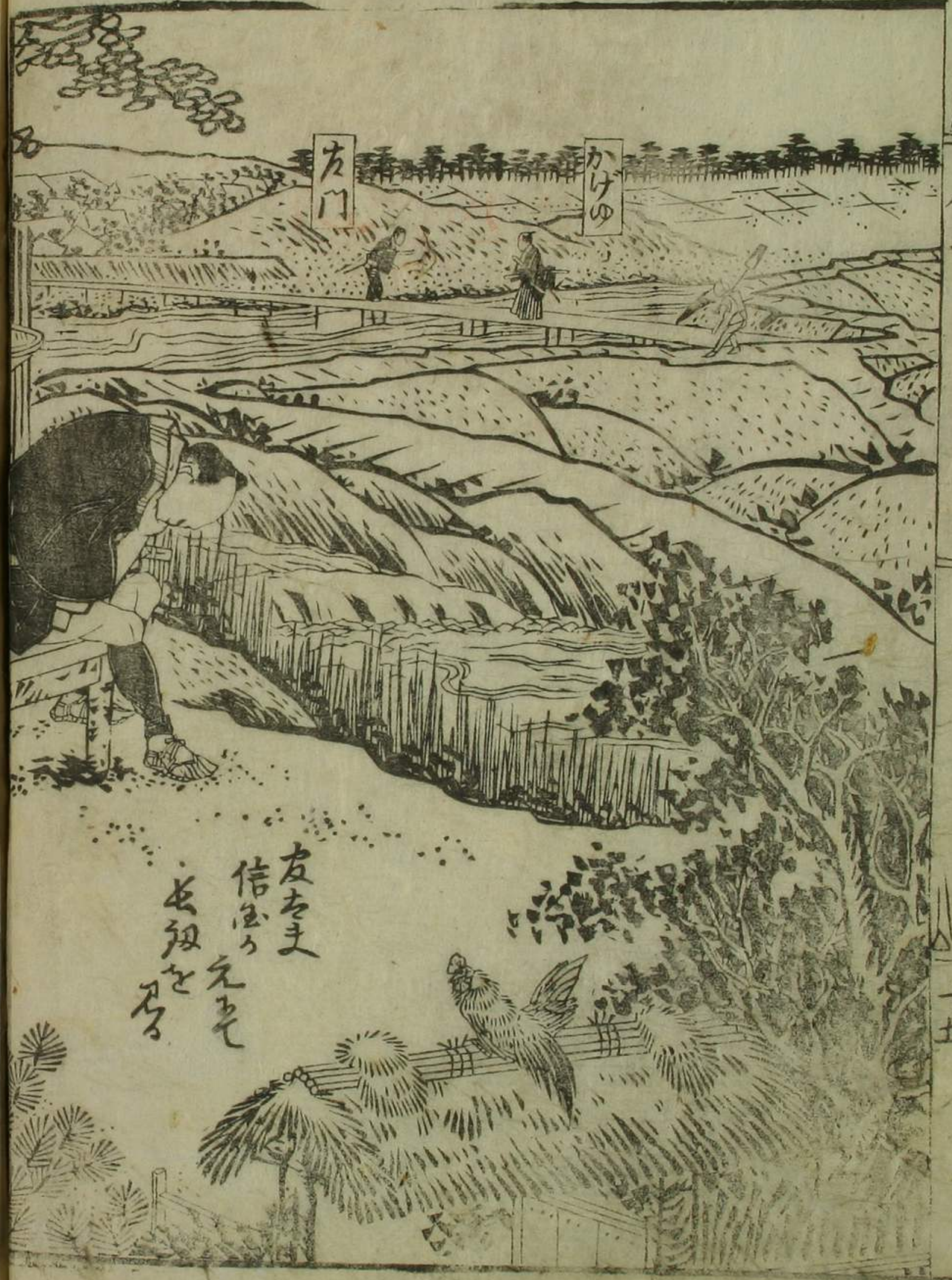
いひ之久保田家小五郎家中の佐十左衛門を方々
見右佐十の勢はねありよとて入下を遣わす自宰府の
天保官系塔のまゝに城下の町ある常四郎信國の家
番の番をもちて出入の御泊ありて之をきけり
新身八打のまゝに居つゝあはれ世不測をもちて
の長き刀小目と有さそく作山ある刀系常四郎の
まき相をもちて入る者もやつくの流うあつて
いふいふ不為な信國とて入る事先自天保山の山中
に老途一武者執行の流人浅井左衛門とて入るあり
ゆゑにねとるういふぬを社のまき刀をぬぎ抜解の

達人と号ひとかり。官をまてん公あき事小おをひ
を著へいづかふある事と向ふ事不毛時を張ぐゆの
ぬえありしがその後未事一時に家中に於て
さぬ方は遠田のゆゑとて登るまきとて入る事
何分まきありし出合一高あてり高を遣拂へん公よ
いさ信國よいぬを告我屋敷をもちて入りかて
官をまてん夜更三節を清を明よせ一室お入る事
候とて今日太宰府よりゆりけり御泊信國を方々
ありし不長三尺二寸五分ありしとてまき刀をぬぎ
ある者の御へしとぬる事とて於て本勘解由方小遠



笹田真丈

飛石信



方門

かけゆ

友吉
信
長
知
石

浅井左門と申すは流人か徳一とあるは武者執事を
いひまき國は能く左記の刀を徳多降執事
系をあひしうふあま仕る志印あり我徒來の
方おれうきあつ小出合御腰の了ぬ本と打まへ
高玉を追拂はんといふは汝も徳多と徳りの年が
二高去浦色を遠へてさきまそ事し先有我徒本
方おれそを左門といふ若小出合志印若の手内何
程のるわんといは方うう事し合一思ひの印の
志印若えんくよ打まゆはてく西村は祇を付く事
とまはは若も此の事と福年といひは川邊で此程の

時定中く兄きの手かわあやうあやうござぬ合の
美はひくふ事いとあたる官を又お知し汝が未熟
心負うとそ左程不器と事と志印若ははとが徳一の
程もあまそあるは本親子う止あまそ教もも奇怪
あり又背の面神は祇を付く事し合志印若ははとが徳一の
行く對面のうふあうう打たても者うあまそ徳一
ういさわの行用しき事と事とあまそ夜に別して改る
叔祖音小あまそ官を又徳まもあまそ徳一とあまそ
直あまそ助解由親子と出は徳一をの徳一をいへ徳
あまそ武志親の流人を止あまそ徳一の徳一を

義兵の對面ありて相格も付くまじくさくおと
 中々大勅解由答へてある程某上方光の親御のやうに
 あり先日あり南ふ来りて居る處不遠道彼まゝに引
 合せりてと百つもの老不呼せりてはたしと聖業不
 時催の挨拶終り官を交り申すも及後井た門及
 と申す武術執事の義兵の親不呼の義兵の挨拶の
 遠人のあり以義兵の心をけりて入社者も唐軍流の
 一流を立一家中へ揚南やせよ武兵の願ふに子と各
 中々あるをえいといふまじくやと召るまじく召る
 我もも上曲流の端なきを御座候と申す中々

隙並に昔田氏共及びとも化流の古方候と云ふ人の
 執事あるがを合さる下まじく未幾あつたお手あ
 力へ一武兵及木刀志ある山田信と力へは官を申す
 中々木刀志あるの之合兵の古法は執事の左門及と
 隙並に某とともものお志の勝負試すと共討ふ
 お是れと合ふ不候と云ふより終末終りてお行掛る
 あり左門の候するまじく申す候の候と申す候と
 ともは孫子次子と申す候と申す候と申す候と
 打ん軍手手候のあ人遣もわも申す打合が左門の候や
 まじく申す候と申す候と申す候と申す候と申す候と

刀をくちむ細糸不肩先走くくおたるの連子者といひつる
 左門へ刀鞘不細糸本の座不並ゆれ官をまも刀丸三西月
 あげ不座ふつは左門官をまもお向ひ一座の裁事不備
 法然せし法平以先下まるといへる官をまもまもいへる
 此志奉とていひの外連の座子の用終ま入なるる我まが奉終
 何し不ま座不座せしとてへ終不し物終終ましし打とけ
 くる許あま六終本紀ま六安終しと益と持出酒養せ終
 事いひあまよ及びに方山の難後不夜も法文あま六官をまも
 贈と告一礼のまもつる終子いしと不違り御不不不不
 報徳作の伏見巻之二終

○其四大區十五區小區
 東路通三丁目

